

TE-031錠の臨床的検討

川畑正博・加藤達雄・山根至二・真下啓明

東京厚生年金病院内科

新しいマクロライド系抗生物質であるTE-031錠を呼吸器感染症3例に投与した。投与法は、1日400 mgを7-9日間、経口投与した。臨床的効果は、肺炎有効2例、慢性気道感染症の増悪やや有効1例であった。副作用は認めなかった。

TE-031は大正製薬株式会社で開発された新しいマクロライド系抗生物質であり、その構造式はFig. 1のとおりである。

抗菌スペクトラムは、好気性グラム陽性菌、陰性菌の一部、嫌気性菌、キャンピロバクター、マイコプラズマ、クラミジア、ウレプラズマ等と従来のマクロライド系薬剤と同様であるが、抗菌力は、マクロライド系薬剤の中でも最も強力とされているEMと同等ないしは若干強い。さらに、酸に対し極めて安定であり、経口投与により高い血中濃度と持続性を示す。また、組織移行性は、EMと比較し数倍から数十倍の濃度を有し、そのうち、特に肺への移行性に優れている。また、従来のマクロライド系抗生物質の尿中排泄は数%と低かったが、TE-031は活性体として数十%尿中に排泄され、尿路感染症に対しても効果が期待されている¹⁾。

今回、慢性及び急性呼吸器感染症に対し本剤を投与し、臨床効果及び副作用について検討したので報告する。

I. 投与対象及び投与方法

対象となった症例は、昭和61年7月から62年1月までの当院外来及び入院中の患者3名であり、その内訳は男子1名、女子2名であり、年齢は26-56歳である。臨床診断名は、肺炎2名及び気管支拡張症に伴う慢性気道感染症1名である。

TE-031錠の投与方法は、1錠100 mgの錠剤を朝・夕食30分前または30分後に2錠ずつ、1日2回投与した。投与期間は7-9日間であった。

臨床的効果の判定は、臨床症状及び臨床検査所見の改善をもとに、著効、有効、やや有効、無効に分け判定した。また、細菌学的効果は、本剤投与前後の起因菌の消長をもとに消失、減少、不変、交代、不明とに分けた。副作用としては、自覚症状、血液、尿ならびに肝・腎機能に関する検索を行ない判定した。

II. 成績

臨床的効果は、肺炎有効2例、慢性気道感染症の増悪

やや有効1例であり、細菌学的効果は、消失1例、不明2例であった。

自覚症状及び臨床検査上、副作用と思われるものはなかった(Table 1)。

症例1: W.A., 56歳, 女性, 気管支拡張症及び慢性気道感染症の増悪

昭和61年3月より気管支拡張症にて当科外来に通院。咳嗽、喀痰続いていたが、7月になり症状の増悪がみられたため、7月16日から同23日まで、TE-031錠を1回200 mg, 1日2回、朝食及び夕食後30分に投与した。その結果咳嗽、喀痰は消失しないまでもある程度の改善を認め、臨床的効果はやや有効と考えた。なお、7月16日の喀痰培養から検出されたのはnormal floraのみであった。副作用は認められなかった。

症例2: N.R., 26歳, 男性, 肺炎

昭和61年7月19日より、喀痰、咳嗽、咽頭痛及び発熱出現。7月21日、近医受診し、投薬受けるも症状改善しないため、7月23日、当科外来を受診。胸部ラ音聴取し、胸部X線で浸潤影を認め、肺炎と判断し、同日より、TE-031錠1回200 mgを1日2回食後投与した。その結果、1週間後には喀痰、咳嗽が若干残存するも発熱なく、胸部ラ音も消失した。さらに1週間TE-031錠投与した

Fig. 1 Chemical structure of TE-031

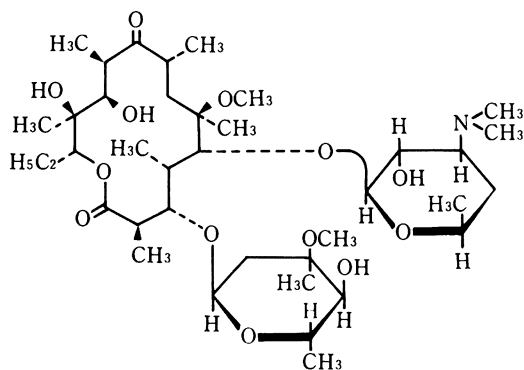


Table 1 Laboratory findings before and after treatment with TE-031 (tablets)

Case No.		RBC ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	WBC ($/\text{mm}^3$)	Platelets ($\times 10^4/\text{mm}^3$)	Eosino (%)	GOT (KU)	GPT (KU)	Al-P (KAU)	T-Bil (mg/dl)	BUN (mg/dl)	S-Cr (mg/dl)	Urinary protein	CRP	ESR
1	B	411	6700	21.6	4.6	24	17	137	0.2	20.8	0.86	±	—	50
	A	412	6600	24.1	2.8	16	12	127	0.5	18.1	0.81	±	—	48
2	B	470	6900	26.4	2.8	18	18	151	0.3	13.9	1.06	±	4(+)	40
	A	498	7100	41.2	6.5	16	24	144	0.3	10.3	0.94	—	(-)	15
3	B	413	8100	31.3	0.8	18	10	132	0.2	2.8	0.72		11.3*	95
	A	446	6400	49.8	0.7	20	18	126	0.5	12.4	0.85	±	0.1*	45

* : The method in this case was different from that in the other cases

B Before A After

が、来院中断のためその後の経過は不明である。しかし、上記の如く症状、所見の明らかな改善を認め、CRPも来院時の4(+)から陰性となり、臨床的效果は有効と判定した。なお、喀痰から検出されたのは normal flora のみであった。副作用は認められなかった。

症例3: M.Y., 38歳, 女性, 肺炎

昭和61年12月30日, 悪寒, 発熱あり。市販の感冒薬を服用したが症状改善せず。咳嗽著明にて昭和62年1月2日, 当院救急外来を受診し, 肺炎の診断にて入院となる。Cefazolin 投与したところ一旦解熱したため投与中止。しかしその後, 37℃の熱, 咳嗽あり, また, 胸部X線上の浸潤影, CRP陽性を認めたため, 1月8日よりTE-031錠を1回200mgを1日2回食前に9日間投与した。その間, 徐々に解熱, 胸部X線所見の改善を認め, CRPも1月5日11.3であったが, 1月14日には0.1となり, 臨床的效果は有効と判定した。また, 1月5日の喀

痰から *H. influenzae* を認めたが, 1月9日の喀痰からは同菌は検出されず, 細菌学的効果は消失と判定した。副作用は認められなかった。

Ⅲ. 考 察

マクロライド系抗生剤であるTE-031錠は, 従来のものに比し抗菌力, 組織移行性に優れるとされているが, 当院での呼吸器感染症患者3例に対し投与を試みたところ, 肺炎2例に有効, 慢性気道感染例1例にやや有効の結果を示した。しかし, 症例数十分でなく, 今後さらに経験を重ね, 検討する必要があると考えられる。

文 献

- 1) 第35回日本化学療法学会総会, 新薬シンポジウム。TE-031, 盛岡, 1987

CLINICAL INVESTIGATION OF TE-031(A-56268) TABLETS

MASAHIRO KAWABATA, TATSUO KATO, YOSHUI YAMANE and KEIMEI MASHIMO

Department of Internal Medicine, Tokyo Koseinenkin Hospital, Tokyo

TE-031(A-56268), a new semisynthetic macrolide antibiotic, was administered to 3 patients with respiratory infection. TE-031 tablets were given orally at 400 mg/day for 7-9 days. The clinical efficacy was good in 2 cases of pneumonia and fair in 1 of aggravated chronic respiratory infection. No side-effect was observed.